

読書記録シート

読書番号 13 氏名 有田 志子

記入年月日 2003 年 6 月 22 日

題目(書名・論文名) ワーキングメモリの個人差が文章理解に及ぼす影響

著者 森下 正修、芋坂 直行

出版社 第64回日本心理学大会 出版年 2000 ページ数 p761

書籍のありか 北海道教育大(函館校)

関連する箇所の内容

仮説 ; WM の容量の個人差が文章理解に与える影響を調べる

方法 ; 単独課題群(普通に文章を読む) と 構音抑制効果群 (1秒間に3回のスピードで繰り返しつづやく) だと、単独課題のほうが、文章理解において良い成績を示した。

なぜ、これが生じるのかといえ、文章読解には音韻的処理が必要であるのに、その音韻的処理を他のタスクによって占められてしまうことが問題。

結果と考察 ; 音韻ワーキングメモリの容量の個人差によらず、文章理解において、音韻的処理が使われるので、音韻的処理課題を文章読解の際に課すと、成績が悪くなる。

自分の意見

この論文は、タイトルがワーキングメモリの個人差といってる。それは、Working memory の音韻ループのことをさしている。

音韻ループの容量の少ない人だけが、文章読解の際に、音韻処理が混ぜられると(読んだ内容を発音する)文章読解の成績に影響するのではなくて、

個人差によらず、文章読解の際に音読させるのは、文章理解に干渉する。

なぜかといえ、読むときにも、この音韻ループを使用するから、音読すれば干渉が生じるから。